

研究ノート

モンポウ／ブランカフォルト往復書簡（1930年以後）解題と翻訳

椎名亮輔

同志社女子大学
学芸学部・音楽学科
教授Correspondence between Frederic Mompou and Manuel
Blancafort (since 1930) : Translation and Commentary

SHIINA Ryosuke

Department of Music, Faculty of Liberal Arts,
Doshisha Women's College of Liberal Arts,
Professor

【解題】

現代カタルーニャを代表する作曲家、フラダリック・モンポウ（1893～1987）とマヌエル・ブランカフォルト（1897～1987）の往復書簡を紹介する。これまでに：

1918年から1921年までの書簡：『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第32巻（2015年）；

1921年から1924年7月までの書簡：『同志社女子大学学術研究年報』第66巻（2015年）；

1924年8月から1925年3月までの書簡：『同志社女子大学文学研究科紀要』第16号（2016年）；

1925年5月から1926年4月までの書簡：『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第33巻（2016年）；

1926年4月の書簡：『同志社女子大学文学研究科紀要』第17号（2017年）；

1926年5月から7月までの書簡：『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第34巻（2017年）；

1926年8月から1927年の2月までの書簡：『同志社女子大学学術研究年報』第68巻（2017年）；

1927年3月から6月までの書簡：『同志社女子大学文学研究科紀要』第18号（2018年）；

1927年7月から12月までの書簡：『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第35巻（2018年）；

1928年1月から9月までの書簡：『同志社女子大学学術研究年報』第69巻（2018年）；

1928年10月から年末の12月までの書簡：『同志社女子大学文学研究科紀要』第19号（2019年）；

1929年の書簡：『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第36巻（2019年）；

というように発表してきた。

そして今回がいよいよ最終回、1930年以後から現在に到るまでの、二人の書簡の残り全てを紹介する。

今回紹介する書簡は、最初の数通こそ1930年代の最初の頃のものが続くが、その後はいきなり数年飛び、さらには80年代にまで飛んで途切れてしまう。前回の翻訳・解題でも触れたが、当時のスペインでは1931年に、1923年から続いていたプリモ・デ・リベラ将軍の軍事独裁政権が崩壊し、共和政が敷かれるが、29年の世界恐慌の影響は大きく、そのため政治情勢も安定しなかった。1936年に左翼政権が成立すると、直後にはフランコ将軍のクーデターでファシズム政権が成立してしまう。その後は第二次世界大戦、戦後にも存続したフランコ独裁など、周囲を取り巻く激動の時代において、彼らの中の書簡は存在はしたはずだけれども、現在の我々の手元には残っていないのだろう。あるいは、カタルーニャ語使用を抑圧したフランコ政権を憚って、わざと手紙を書かなかったということも考えられる。

この時期に書簡が現存しないことについて、ブランカフォルトの伝記を著したジョセ・アビニョアは、ブランカフォルトが仕事と家庭で忙しくなったことと、モンポウが1954年に結婚したことを挙げているが、余り説得力は

ない（ブランカフォルトは1920年の結婚以来、あるいはそれ以前からも既に音楽以外で多忙であった。Xosé Aviñoa, *Manuel Blancafort*, la Generalitat de Catalunya i Edicions Proa, Barcelona, 1997, p.32.）。

ブランカフォルト財団からの資料の最後に、突然、1976年以後のテキストが収められているのも象徴的である（フランコ独裁政権は1975年のフランコ死去により終結した）。ちなみにこれらのテキストではマヌエル・ブランカフォルトの兄、ペレ・ブランカフォルトの著書が話題となっているが、マヌエルの妹ロサリオ・ブランカフォルトは、カルメル修道会で修道女となって、1949年来日し、神戸の垂水にカトリック系ミッションスクールの愛徳学園を設立している。意外なところに日本との接点があるものである。

最後に補遺として、最近発見されたモンポウからブランカフォルトに宛てた書簡も収めた。これは2017年5月にブランカフォルトの孫たちの一人、マヌエル・ロマニ・ブランカフォルトが書類を整理していて見つけたものだ。筆者はこれを、バルセロナにあるモンポウ財団Fundació Frederic Mompouの事務長であるベルタ・ミリヤ女史からの手紙で知ることができた。

その他の全ての書簡の出典について改めてここに提示しておく。モンポウの書簡の出典はカタルーニャ図書館 Biblioteca de Catalunyaの音楽部Secció de músicaに所蔵されている「モンポウ資料Fons Mompou」の中の、「ブランカフォルト宛の書簡Correspondència a M. Blancafort」（M5022/2）である。また、ブランカフォルトのものはブランカフォルト財団Fundació Manuel Blancafort所蔵の資料である。原資料の翻刻・解説にあたっては、カタルーニャ音楽院教授アドルフ・プラ氏およびクリスティーナ・カバ女史の協力を得た。改めてお礼を申し上げる。

今回が最後なので、もう一度、この仕事が可能になったのは2013年度同志社女子大学在外研究助成金によりバルセロナに1年間滞在できたおかげであり、そのことにここで篤く感謝したい。

【翻 訳】

175

Paris 12 Novembre 1930

Estimat amic

Encara que avui no es dilluns t'escric per fer un present a la reunió (sera per el proxim dilluns)

Estic encostipat! Misericordia!

Els meus dits no destilen rés. Feu pregaries.

Després d'aquell treball de má esquerra, ja res més. Si, un altre Preludi de sis dits (el dit gros aixafa un ré de tan en tan com un sello)

Tinc moltes idees embastades pero jo sempre estic pendent de "la solucion mañana." Ja en tinc de paciencia amb això de la música Ara sortira l'edició de les meves melodies a Rouart Lerrolle.

Va parlarme en Parcerisa de les assosciacions de Catalunya d'una audició de obres de catalans. Vaig proposar també si se podia arreglar de fer alguna cosa del ballet d'en Lamote i el teu.

Desitjo a tots treballeu forsa

Suposo tots bé de salut Saludos a la teva familia i també per tot el "grupo dels..."

Teu amic

Frederic

パリ、1930年11月12日

親愛なる友よ、

今日は月曜ではないけれども、集会でのプレゼントになるように君に手紙を書く（次の月曜のためにね）^[1]。

風邪をひいた！ 何てこった！

ぼくの指からは何も滲み出てこない。祈ってくれたまえ。

あの左手のための仕事以来、何にもなした。いやあった。6本の指のための前奏曲だ（親指がときどきハンコみたい に二音を押し潰すんだ）^[2]。

いろいろな計画のアイデアはあるけれども、いつも「仕上げは明日……」というペンディング状態さ。音楽のそれには我慢しているんだけどね。そろそろルアール・エ・ルロール社からぼくの歌曲が出版されるはずだ^[3]。

カタルーニャの協会のバルセリサ^[4]から、カタルーニャ人の作品のオーディションについて話があった。ぼくはまた、ラモット^[5]のバレエと君のとで何かできないかと提案してみたよ。

皆がたくさん仕事ができることを祈っている。

皆元気だと思う。君の家族によろしく、そしてまた「……のグループ」の皆にも。

君の友人、

フラダリック

註

[1] 「集会」とは恐らく最後にも出てくる「……のグループ」、すなわち「カタルーニャ8人組」の集会のことだろう。1931年（1929年とも言われる）にジョアン・ジベルト・カミンス（書簡168参照）を中心に、バルタサール・サンペール（書簡165参照）、リカルト・ラモット・ド・グリニョン（書簡92などに既出のジョアンの息子）、ブランカフォルトの4人で「カタルーニャ独立作曲家協会 Compositors Independents de Catalunya」として始まり、後にロベルト・ジェラルト（書簡136など参照）、アグスティ・グラウ（書簡136参照）、エドゥアルト・トルドラ（書簡117ほか参照）、モンボウが参加した。

[2] 「左手のための仕事」とは左手のための《前奏曲》第6番のこと。しかし第7番以後の前奏曲には「ニ音を押し潰す」に当たるようなものはなさそうだ。ちなみにアントニオ・イグレシアスによれば、第7番は1951年に、第8番は1943年に書かれたとされるから、この《前奏曲》は破棄されたのだろう。（Antonio Iglesias, *Federico Mompou (su obra para piano)*, Editorial Alpuerto, Madrid, 1976, p.176-7.)

[3] 書簡167で話題になっている《4つの歌曲》のこと。

[4] リュイス・バルセリサ Lluís Parcerisa i Serra (1896～1989)。カタルーニャ州ルビー生まれのジャーナリスト。若い頃から『サバデイ新聞 *Diari de Sabadell*』で働き始め、

様々な分野で活躍。カタルーニャ音楽振興にも貢献した。

[5] ラモット・ド・グリニョンのこと。

176

18 - VI - 31

Sr.

Frederic Mompou

Estimat amic

Carta meva? Què passa?

Realment ara es tot un cas això d'existir correspondència entre nosaltres!

Doncs bé, el nostre grup celebra una "primera" de conjunt a "Audicions Intimes" filial de la "Càmera". Tindrà lloc la presentació oficial de la [n/] secta el 25 nit a la Sala Mozart. (Samper, Gerhard, Lamote, Gibert, Grau, Toldrà, i tu i jo.)

Crec que deus haver vist alguna cosa d'això als diaris, però jo t'ho dic oficialment en nom del grup. La teva presència està anunciada: ja suposo que no mancaràs. De tu es toca "Altitud" (Toldrà) i "Cançó incerta" No recordo si alguna altra cosa. Ja et faré arribar programes quan estiguin.

Jo passo una època absolutament allunyat de l'art i lluitant com una fera pel pa dels fills. Els negocis, la República, els canvis, etc - en fi un desastre de feina i de mal de caps.

En Senart està de crisi i no publica gairebé res. Això fa que tinc coses noves (?) inèdites fa tres anys. Estic molt desencoratjat.

Escriu-me si et plau.

Teu amic MBlancafart

1931年6月18日

フラダリック・モンポウ殿

親愛なる友よ、

ぼくの手紙は？ どうなった？

本当に今回は珍しいことだぜ。ぼくたちの間で往復書簡が存在するなんて！

まあつまり、我々のグループが「室内楽」の姉妹版として「内密なオーディション」を皆で「初演」ということになったわけだ。[n]セクトの公式プレゼンテーションは、モーツァルト・ホールで25日の夜に行われる（サンペール、ジェラルト、ラモット、ジベルト、グラウ、トルドラ、そして君とぼく）^[1]。

新聞雑誌でそれについて何か見たらと思うが、グループの名において公式に君に伝えるんだ。君が出席することは発表されている。間違いなく来てくれるだろうね。君のものとしては、《高み》（トルドラ）と《不安な小唄》が演奏される。ほかに何かあったかは思い出せない。プログラムが出来上がったなら君のところに送るよ。

ぼくは、芸術から絶対的に離れて、子どもたちのパンのために野獣のように戦うという時期を過ごしている。諸事業、共和国、為替相場などなど。そしてしまいには、壊滅の仕事と頭痛とくる。

スナールは経営不振で、ほとんど何も出版していない。そのおかげで、ぼくはこの3年来、新しい作品(?)を出版されないで待っている状態だよ。全くもってがっかりだ。

お願いだから手紙をくれたまえ。

君の友人、Mブランカフォルト

註

[1] このコンサートは、クララ・ジャネスによれば、グループがカタルーニャ現代音楽を称揚するという使命を果たしたために解散するに当たったものだった。曲目は、ジェラルト《三重奏曲》第2番、ラモット・ド・グリニオン《ソナチネ》、ブランカフォルト《遊園地》より〈回転木馬のオルガン〉と《チャーリー・チャップリンへのオマージュ》、サンペール《農民達の儀式》。そして歌曲が、

グラウ《縁日へ》、ジベルト《寂しさ（変奏）》、ブランカフォルト《王様達》、トルドラ《山へ》、ラモット《4つのスタンザ》、サンペール《酒場の歌》、ジェラルト《7つの俳諧》。そしてモンポウの2曲であった。Clara Janés, *La vida callada de Federico Mompou*, Vaso Roto Ediciones, Madrid, 2012, p.161.モンポウのヴァイオリンとピアノのための《高み》に「トルドラ」とあるが、トルドラはヴァイオリニストでもあったので彼が演奏したのだろう。（アビニョア『ブランカフォルト』には、プログラムの曲目について多少違った情報があるが割愛する。Aviñoa, *op.cit.*, p.51.）

177

Paris 28 juny 1931

Estimat amic

Poguerse privar de correspondència pot ésser també prova de gran amistat desde el moment que sabem que no es indiferència la falta de correspondència...

Suportém doncs amb resignació la distància dels dos amics

Referent al concert estic molt content de veure la primera manifestació del nostre grup

Jo, no tantsols m'ha sigut impossible de fer acte de presència que a mes aquest any no seré a Barcelona que per setembre.

De Paris vaig a una platja casi a Biarritz aont estaré fins a mitg agost... Passaré després els ultims d'agost a Cadaqués a la casa del meu germà. El setembre el passaré tot a Barcelona amb els pares.

Vaig tenir notícies qu'el teu intent sarsuelero va fracassar sincerament jo volia escriuret per... felicitar-te, crec que comprendras la meua sincera felicitació qu et fa quedar en un lloc mes elevat que no t'hauria fet quedar l'exit.

Jo com sempre escric poc. He fet dos Charmes, rés, dos grams de musica

He tingut la sorpresa de veurem premiat el meu disc Jeunes filles au jardin amb el Gran Prix du Disque 1930 que com deus saber es un premi que tindrà lloc cada any al disc millor enregistrat. El meu es enregistrat per la casa Gramofon française i es interpretat per Magda Tagliaferro.

Comprens que la casa Senart no t'editi mes pues verdaderament hi ha una gran crisi. Crisi que nosaltres tenim l'aventatge de no sentir pues sempre ha estat crisi per nosaltres.

Me faig carrec de la feina que deus tenir. Els negocis no marchen?

I la Republica? Jo desitjo per a Catalunya tota la llibertat possible pero no la separacio.

El dilluns que vé recordem a tots els amics.

Amb afectuosos saludos per tots els teus ja sabs soc sempre el teu amic i que despres del prelude de la ma esquerra he fet un Charme tot de sonoritats metáliques.

teu amic

Frederic

パリ、1931年6月28日

親愛なる友よ、

手紙を交換しないで済ますことができるということは、また、往復書簡なしでも関係がないということを知っている時点で、大いなる友情の証とも言えるだろう……。

だから、諦めをもって、二人の友人としての距離を耐え忍ぼうではないか。

コンサートに関しては、我々のグループの最初の行事を見られてとても満足しているよ。

ぼくはと言えば、それに参加することも不可能だし、そのうえ、今年9月まではバルセロナに帰れそうにない。

パリからビアリッツ近郊の海岸に行き、8月半ばまで留まるつもりだ……。それから、8月終わりはカダケスの兄の家に行く。9月はひと月丸々バルセロナで両親と共に過ごすつもり。

君の「サルスエラについての」企てが挫折したというニュースを聞いた。正直なところ、君にこう言いたいよ……。おめでとうとね。君ならば、君が成功を狙っているところよりも、より程度の高い地位にいられることをぼくが誠実に祝福していることを解ってくれると思うよ。

ぼくは、いつも通り、ほとんど書けていない。《魅惑》を2曲書いただけ、2グラムの音楽さ^[1]。

ぼくの《庭の少女》のレコードが1930年のディスク大賞を獲得したのを見て驚いている。この賞は、君も知っているだろうが、毎年、その年に出された最上のレコードに贈られるものだ。ぼくのはフランスのグラモフォン社で出され、演奏はマグダ・タリアフェッロだ^[2]。

スナール社が君の作品をこれ以上出版しないのは解るよ。つまり、本当に酷い不況なんだ。この不況はぼくたちは感じないでいられるという利点がある。だって、ぼくたちにとっては何時だって不況だったんだからね。

君がしなければならぬ仕事を引き受けようじゃないか。事業は上手く行っていないのかい？

で、共和国は？ ぼくはカタルーニャには可能な自由は全てを願っているが、分離独立はだめだ^[3]。

今度の月曜には友人たち皆を思おう。

君の御家族みんなによろしく。すでに知っていると思うが、ぼくは君の常変わらぬ友人であり、左手のための前奏曲^[4]以来、ぼくは金属の響きで一杯の《魅惑》を1曲書いたんだよ。

君の友人、

フラグリック

[1] ピアノのための6曲から成る《魅惑*Charmes*》は、すでに1925年にパリのマックス・エシック社から出版されている。ここで話題になっているのは、それとは別の作品らしいが不明。

[2] マグダ・タリアフェロ Magda Tagliaferro (1893~1986) は、ブラジル生まれのフランスのピアニスト。父親もまたラウル・ピュニョの弟子のピアニストであり、彼女は7歳の時にすでにリサイタルを催している。父親の健康問題から1906年にフランスに帰国し、パリ音楽院に入学。アントナン・マルモンテルとフォーレに学ぶ。フォーレとは最初のコンサートツアーを行い、フォーレを第2ピアニストとして彼の《バラード》を演奏した。14歳でピアノの一等賞を得て卒業。サン＝サーンスとアルベニスに激賞された。アルフレッド・コルトーにも認められ、弟子となる。カザルスやチボーとも知り合い、彼らの伴奏をする。またベネズエラ出身のレナルド・アーンとも親交を深め、彼の《ピアノ協奏曲》を捧げられた。当時の彼女の知己には、ラヴェル、ダンディ、プーランク、ミヨー、ルービンシュタイン、モンポウがいた。1930年に、モンポウの《子供の情景》(1915~18) から《庭の少女》と《街外れ》(1916~17) から《小道、ギタリスト、そして年老いた馬》を録音したレコードが「レコード大賞 Grand Prix du Disque」を受賞した (French HMV P855)。この録音はCDによる復刻版で聴くことができる (*The Art of Magda Tagliaferro*, Heritage, HTGCD 277)。第二次世界大戦中はブラジルに帰ってピアノ教授や演奏に明け暮れた。1949年にはフランスに帰国し、パリに自らのピアノ学校を設立。ショパン・コンクールの審査員も何度か勤めた。驚くべきは、彼女がカーネギーホールでのデビューを86歳の時に行った事だ。米国の評論家達は彼女の演奏を絶賛したと言う。

[3] 1930年にプリモ・デ・リベラ将軍が失脚すると、それまで抑圧されていた社会主義勢力ばかりか、カタルーニャでは王党派も共和政を望むようになった。1931年4月12日の地方選挙目前に、共和派諸勢力と社会主義勢力が協定を結んで選挙で勝利し、国王アルフォンソ13世は退位・亡命を余儀なくされ、4月14日に共和国(「第二共和政」)が宣言された。カタルーニャでは「カタルーニャ左派共和党」が大勝利の末、同じく14日にカタルーニャ主義者のフランセスク・マシアーが「カタルーニャ共和国」設立を宣言。マドリッドの中央政府はこれに危機感を抱いて介入。17日に「カタルーニャ自治州」を認め、自治憲法まで認めることで、事実上の独立宣言であった「共和国宣

言」は取り下げられた。

[4] 前述の《前奏曲》第6番。

178

Paris 21 Jener 1932

Estimat amic.

Vaig sentir molt estar tan aprop teu sense veuret

Puc assegurar-te que entraba en el meu programa de les festes l'anar a la Garriga pero l'honor d'una grip m'en va privar. T'esperaba a l'estació.

Als pocs dies de ser a allí vaig anar a la reunió del dilluns a can Gibert aont pensava trobar-te.

Que hi ha doncs dels concerts de Madrid?

Jo estaré molt content si en Lamotte m'orquestra alguna cosa pero me sab greu donar-li aquesta feina. Ja sab que li estaré molt agraït si ho fa i descomtat que tots els gastos ja els hi pagaré.

Ara que de cap manera Cançó i dansa pues si la musica no es meva ni l'instrumentació tampoc, no queda res per mi

A mi m'agradaria Suburbis

Ja suposo tu sempre tant enfeinat. Sento molt com deia haver estat privat d'un passeig per la via i d'uns cuants Kilometres de paper foradat.

Que has fet de nou?

Jo rés! Estic desesperat pero penso que estem en una época massa interessant per a fer musica. tothom discuteix. tothom porta les mans al cap

Jo estic millor en un balconet sobre l'humanitat que sentat al piano Sento massa cridoria al carrer que ja no sont precisament escenes d'infants

Trobo que tots els artistes del mon tindrien d'estar al "balconet i esperar. com els dies de la professó.

Escriume

Teu amic

Frederic

パリ、1932年1月21日

親愛なる友よ、

こんなに君の側にいたのに会えなかったのはとても悲しかった。

ぼくの年末年始のプログラムにラ・ガリーガに行くことが入っていたことは確かなのだが、名誉のインフルエンザがそれを不可能にした。車で君を待っていたんだよ。

そちらにいた短い期間、ジベルト邸での月曜集会に行った。君に会えるかと思ってね。

さて、マドリッドのコンサートはどうなったかい？

もしラモットがぼくの作品のいずれかをオーケストレーションしてくれれば、とてもうれしいが、彼にその仕事を頼むのはどうも気が進まない。もし彼がそれをすれば、ぼくがとても感謝するだろうし、当然のこととして、全経費が支払われるということを彼はよく知っているんだ^[1]。

《歌と踊り》が、音楽がすでにぼくのものでないとしたら、オーケストレーションまでぼくのものでないなら、全くもって、ぼくのは全然なくなってしまうことになる。

ぼくは《街外れ》の方が良いと思う。

君はいつも通りとても忙しいのだと思う。前にも言ったと思うが、街路の散歩もできなかったし、何キロメートルも穴あき用紙^[2]も見ることができなくてとても残念だよ。

何か新しいものを作ったかい？

ぼくは全然！ 絶望的だ。でも、ぼくたちは音楽をやるには余りに興味深過ぎる時代に生きているとも思う。あらゆる人々が議論している。あらゆる人々が驚愕している。

ぼくはピアノに向かっているよりも人類を見渡す小さなバルコニーにいる方が良いんだ。町中での叫びをたくさん聞き過ぎている。それもまさに子どもたちの情景ではないものだ。

世界中の芸術家たちは「小さなバルコニー」にいて、聖体行列のときのように、待っているべきだと思うよ。

手紙をくれたまえ。

君の友人、

フラダリック

註

[1] この書簡のモンポウの意見通り、リカルト・ラモット・ド・グリニオンは《街外れ》の第1曲〈小道、ギタリスト、そして年老いた馬〉をオーケストラ用に編曲し、1933年10月20日ジローナ市立劇場で初演している。ここで注意しておきたいのは、彼らの書簡中に出てくる「ラモット」には二人いることで、ジョアンが父親、リカルトはその息子である。往々にしてこの区別は不明瞭であり、文脈から推測するしかない。Ricard Lamote de Grignon i Ribas (1899~1965) は、リセウ音楽院およびアカデミア・マールシャル卒。バルセロナ交響楽団とリセウ劇場管弦楽団にチェリストとして入団し、1930年からジローナ交響楽団の監督・指揮者となっていた。

[2] ブランカフォルトの家業のロールピアノのロールのこと。

Paris 4 Abril 1932

Estimat amic

He rebut la teva carta amb el pedido de Suburbis que he fet enviar desseguida per en Senart. Suposo doncs que es per aquells concerts de Madrid

Ja suposo deus estar més que mai entre la espuma dels savons pues es una epoca que s'ha de lluitar molt i treballar molt pero aixis com en altre temps el treball era sempre fructuós, ara es estéril, i molts obrers que voldrien treballar no poden per falta, no de treball pero si per falta de reorganització del treball. Me fa l'efecte que endevino el desenllaç de tot aixó per un pervindre potser encara molt llunya.

Jo de musica també res.

Ultimament he fet una melodia per el centenari de Goethe que van muntar a la festa de la Universitat a Barcelona

Com sempre te diré que jo ja me sento vençut en la vida ó almenys si rés no ve a canviar-me jo rés faré.

M'estic en la vida balancejant no picat per la mosca de la son pero si de l'endormiscament

Aquest istiu aniré a Barcelona aon tindrém mes ocasió de veurens que en el passat nadal grip.

teu amic

Frederic

パリ、1932年4月4日

親愛なる友よ、

《街外れ》を欲しいという君からの手紙を受け取った。すぐにスナールから送らせたよ。思うに、それはマドリッドでのコンサートのためだね。

今や嘗てないほど君は石鹸の泡の中にいること思う^[1]。というのも、今こそたくさんの戦いとたくさんの仕事をしなければいけない時期なのだから。しかし、嘗ては仕事は常に実のあるものだったが、同様に今は実がないもので、多くの働きたい労働者が、仕事不足あるいは職場組織が悪いために、働けないでいるのだ。これら全ての解決は、おそらく未だ未だとても遠い未来のことになるだろう、というような気がしているよ。

ぼくも音楽というとはやはりゼロだ。

最近ぼくは、バルセロナ大学で行われるゲーテ生誕百年祭のための歌曲を1曲作曲した^[2]。

いつものように、ぼくは人生の敗者であると感じていると言おう。あるいは、少なくともぼくを変えるような何かが起こらなければ、ぼくは何もしないだろう。

ぼくの人生は揺れ動いている。睡眠病のハエに刺されたのではなく、眠気病のそれに刺されたのだ。

この夏はバルセロナに帰る。去年の年末年始（インフルエンザ）よりももっと会う回数を増やそうじゃないか。

君の友人、

フラダリック

註

[1] すでに書簡168で、ブランカフォルト一家は、レコードの発明以来落ち目のピアノロール業から、石鹸の製造販売へと家業を変えて行こうとしていたことが解る。

[2] ジャネスによれば、彫刻家のラモン・ボラス Ramón Borrás (1858~1941?) がこの作曲を委嘱したらしい。実際の作品は無伴奏のもので、後の《魂の歌 *Cantar del alma*》(サン・ファン・デ・ラ・クルス詩)の先駆を成すものと言う (Janés, *op.cit.*, p.165.)。

8 - IX - 32

Estimat amic

Si esperés a tenir temps de dir-te totes les coses que podria dir tardaries a rebre la carta. Em resigno, doncs, a posar les quatre ratlles "que voici."

Estàs completament descarregat quant a la teva absència la nit del "Rapte". Això rai, es poca cosa. Vull dir que la meva obra es ben poca cosa als teus ulls. I vull dir que jo em faig molt càrrec de tots els cordills i cordetes que

et tenen lligat, entre el quals es perd un tel d'aranya que encare jo, de tant en tant, estiro perque pensis en La Garriga (no goso dir en el teu amic)

Aquesta estrena a l'orquestra Casals ha sigut un oasi musical en la meua vida d'ara, deserta de satisfaccions o fruicions artístiques. Meno una existència d'esclavitut i de treball. Sovint crec endevinar que cada dia soc menys artista (si es que ho he estat) i més home.

La lluita que hi ha dintre meu es entre el jo que "hauria hagut d'ésser" i el "jo que soc". Però, ja està. No hi ha rès a fer ni rès a esperar. El millor que puc fer es treure tot el partit possible de la realitat i dignificar la meua existència actual.

A mida que em vaig allunyant de la meua juventut, la silueta dels records es va fent alta com una gran muntanya on hi han totes les remors, tots els aromes, tots els cants d'ocells, totes les flors que en el mon hi ha de millor. Tota la vida veuré que tu i jo caminem per aquella muntanya; i això ja es molt.

[FALTA TEXTO]

1932年9月8日

親愛なる友よ、

もし君に言うべきことを全て言うための時間を待っていたとしたら、君が手紙を受け取れなくなってしまうだろう。だから、諦めて、ちょっと書くことにするよ。「これがそうさ(ク・ヴォワシ)」 [フランス語]。

《 [サビニ女たちの] 略取》の晩に君がいなかったことについては、君は完全に解放されている。どうでも良いことじゃないか？ 小さなことだ。ほくが言いたいのは、ほくの作品など君の目には大したものではないということさ。そしてまた言いたいのは、君を縛っている紐やロープはほくが引き受けているということで、それらの間に1本のクモの糸が含まれていて、それをほくはときどき君がラ・ガリーガのことを考えるようにとひっぱりさえするんだよ (友人として敢えて言わないけれどね)。

このカザルス管弦楽団での初演はほくの現在の人生にとってはオアシスだった。そこ [現在の人生] には満足もなければ、芸術的喜びもないんだ。隷属と労働の生活を送っている。しばしばほくは、日に日により少なく芸術家 (もしほくがそうだったとしたら) で、より多く人間となっているように感じるんだよ。

ほくの内面の戦いは、「嘗てあるべきであった」自分と「今現在の」自分との間のものだ。しかし、それでおしまい。それ以上のことは起こり得ないし、期待することもできない。ほくができる最上のことは、現実から可能な利益を全て取り出し、現在の生活を尊厳あるものとする事だ。

青春の時期から遠ざかるにつれて、思い出のシルエットは大きな山のようにどんどん高くなり、そこにはこの世でもっとも良い、あらゆる物音、あらゆる香り、あらゆる鳥の歌、あらゆる花々が存在しているのだ。

一生を通じて、君とほくがその山に登っているのを見ることだろう。そしてこれはすでに多くのことだ。

[欠落]

181

Paris 1 Novembre 1932

Estimat amic

Potser t'enfadaras de tot lo que t'explicaré

Aquest istiu com ja sabs vaig anar a parar a Tossa amb la familia. El destí me va portar de Sant Feliu i aixis me vaig passar l'istiu fent la lle [a?] nçadora calculant quatre dies per banda

Aixó me va fer coneixer pam a pam la carretera de Llagostera i respirar l'aire pur de les 6 del mati.

Durant aquells dies vaig vorejar l'aventura mes perillosa que puguis esdevinar.. Sentimental ja pots suposar pero que he sapigut desviar.

Si pogués parlar a l'amic li diria que continuo sent molt desgraciat pero com que això no ho pot comprendre l'amic, he perdut ja fa temps l'amic. Millor dit quant l'amic ja no pot comprendre la vida de l'amic, l'amistat fuix.

Pero tampoc comprendras, potser, que la solitud no m'espanta, la pitjor solitud que es la que hom sent amb companyia.

Tot això per dirte que després vaig passar per la Garriga per anar a Tona aont va anar a parar la familia. Vaig estar alla solament els quatre dies del reglament pues el 25 Septembre venia a Paris.

Al cap de quinze dies de ser a Paris al meu Pare li agafa un atac a Tona. baixen amb una ambulancia a Barcelona i me telegrafien.

El dia 10 octubre jo arribava a Barcelona i afortunadament el meu Pare se va posar millor pero degut a l'edat ja té l'amensasa a sobre.

Es a Barcelona que vaig rebre la teva carta pregantme anés al concert del 19 pero el 15 sortia altra vegada cap a Paris per arreglar els assumptes d'aquí

Ja veus com encare les infidelitats continuen!

A Tona vaig ser dos dies molt felis i dos molt nerviós. El septembre, dies clars, aquelles montanyes. Quant se pot barrejar el passat amb el present fa una beguda molt forta.

[Ja] Escriume lo del concert i expliquem lo que vulguis de la teva vida que jo ho comprendré.

Llastima que a mi me costa un esforç tan gran escriure pues m'agradaria passarm'hi les hores del dia

No tinc res més que fer.

T'estima

Frederic

パリ、1932年11月1日

親愛なる友よ、

恐らくこれから説明すること全てに君は怒ることだろう。

この夏、君も知っている通り、ぼくは家族と最後にトッサにいた。この地はぼくをサン・フェリウから遠ざけた。こうしてぼくは、それぞれで四日間ずつ行き来をしながら夏を過ごしたんだ。

このことでぼくは少しずつリャゴステラ街道を知ることができたし、朝六時の純粋な空気を吸うことができたんだ。

これらの日々に、ぼくはとても危険な冒険に近付いた……、お察しの通り恋愛のね。しかしまた解るだろうが、ぼくはそこから離れることもできたのだった。

もし友人に話すことができたなら、ぼくはずっと不運だったと言っただろう。しかし、このことは友人は理解できないので、もう何年も前に友人を失ってしまったんだ。もっと言えば、友人がその友人の人生を理解できないときには、友情は失われてしまう。

しかし、君も恐らく理解できないだろうね。孤独がぼくを脅かしていることを。最悪の孤独、人が側にいるときに感じる孤独だ。

これら全てはつまり、それ以後ぼくはラ・ガリーガを通過してトナまで行って、そこで家族に会ったということ君に言いたかったんだ。そこにぼくは規定の四日間だけしかいなかった。そして9月25日にパリに帰ったんだ。

パリに着いて2週間後、トナで父が倒れた。[家族は]救急車でバルセロナに降り、ぼくに電報をよこした。

10月の10日、ぼくはバルセロナに着いたが、幸いなことに父の容態は持ち直した。でも、年齢が年齢だけに、大きな危険を抱えているんだ。

バルセロナで君から19日のコンサートに出席してくれという手紙を受け取ったが、15日には再びパリに戻り、ここ[パリ]での用事を済ませなければならなかった。

さあ、こうして未だに不実さが続いているのを君は見るわけだ。

トナでは二日間とても幸せで、二日間とても神経をやられていた。9月には、晴れが続き、山々が良く見えた。過去と現在を混ぜ合わせることができるとき、出来上がった飲み物はとても強くなる。

コンサートがどうだったか手紙をくれたまえ。そして、君の人生で欲しているものについて教えてくれ、ぼくが理解できるように。

ぼくにとって手紙を書くことがこれほど苦痛なのは残念なことだ。だって、それ [手紙を書くこと] で1日の何時間も過ごしたいと思っているんだからね。

それ以外にすることは無い。

友情をこめて、

フラダリック

182

Paris 9 febrer 1934

Estimat amic

He sentit ja dugues vegades el teu Parc d'atraccions per la Radio tot dinant aquí a París. Això ha tingut prou força per a disoldre la meua horrible pesada per a comunicar-te la meua satisfacció i sobretot aquesta emoció que fa sentir la música de l'amic. Molt bé per la instrumentació.

Res més per dir-te, millor dit per escriure. Ja saps que la teua presència me feia parlar molt però ja no escric gens.

Desitjo que estiguen tots bé i tota la prosperitat que en aquesta època se pugui desitjar

Teu amic

Frederic

パリ、1934年2月9日

親愛なる友よ、

ここパリで君の《遊園地》を2度もラジオで聴いたよ。これは、ぼくの恐ろしい怠惰を破って、ぼくの満足を君に伝えるのに十分な力を持っていた。そして、とりわけ、友人の音楽が生み出す感動をね。オーケストレーションはとても良いよ。

君にこれ以上言うことは、いやより正確には、書くことは、ない。君がここにいれば、ぼくもたくさん喋ることは知っているだろうが、これじゃあ何も書けない。

皆さん、お元気であることと思う。そして、この時代に望むことのできる全ての幸福を祈っている。

君の友人、

フラダリック

183

17 - II - 34

Estimat amic.

Un full groc cap a La Garriga - - Un full blau cap a París - -

El curs de la teua vida i el de la meua van distanciar-se molt.

Però, ara, la meua vida va distanciant-se de mi, cada vegada més.

Estic economicament emancipat de la família. Cap dels meus té res al negoci de perfumeria el qual es d'una societat formada per mi amb un amic (Vidal) que ja has conegut anant amb mi.

Practicament estic sense relacionar-me amb ningú dels

meus. Gairebé renyits.

He de lluitar molt però ho faig amb esperances. Es molt possible que per la tardor anem a viure a Barcelona - -

Què et sembla de tot això!

Abbbfff -

(Ja em dispensaràs)

Veig que vas sentir "El Parc" a la Radio. L'orquestració es aquella de l'Huguet (Ed. Salabert) adaptada per "Brasserie-Cinema". [No] marxa.

Jo he orquestrat tres números i quan pugui (quan?) acabaré la resta. Penso que un Casals estrenarà els tres aquesta temporada - D'altra banda, a Rotterdam, l'orquestra dirigida per Ed. Flipse va tocar (pel Gener) Matí de Festa amb un gran èxit de públic i de premsa. Al concert hi prenia part en Tansmann i era concert de qualitat. El Director m'escriu demanant altres obres, entusiasmats (no arribo a comprendre!) La Radio de Rotterdam donarà Matí de festa, crec aquest més.

Si veus alguna revista de música i llegissis reportatge de Rotterdam, digam'ho.

[AL MARGEN]

No tens alguns números d'orquestra fets per Lamote? - En Flipse els tocaria desseguida.

Records als "teus". L'amic Manuel

1934年2月17日

親愛なる友よ、

黄色の手紙はラ・ガリーガへ……

青色の手紙はパリへ……

君の人生の流れとぼくのそれとは、とても離れてしまった。

しかし、今は、ぼくの人生はぼくからもだんだんと離れて行こうとしている。

ぼくは経済的に家から自立している。ぼくの家のは誰も香水事業とは関係がない。これはぼくと一人の友人（ビダル）、ぼくと一緒に君も会った友人だが、ぼくたちが作った会社なのだ。

ほとんど家族のだれとも関係なく過ごしている。ほとんど絶縁状態だ。

戦いは必須だが、希望を持ってやっている。この秋には我々はバルセロナに引っ越す可能性が大だ。

これら全て君にはどう映るだろう！

アブブブフフ

(失礼しました。)

《遊園地》をラジオで聴いたんだね。オーケストレーションは、ユゲが「ブラッスリー＝シネマ」のために行ったものの（サラベール版）だ^[1]。成功し[なかったね]。

ぼくは3曲をオーケストレーションした。そして、可能なときに（でも何時？）残りを終えるつもりだ。今シーズンにカザルスがその3曲を初演するだろう^[2]。他方、ロッテルダムでは、Ed・フリスペ^[3]指揮のオーケストラが《祭りの朝》を演奏して（1月）、聴衆にも新聞雑誌にも大好評だった。そのコンサートにはタンスマン^[4]も参加して、質の高いコンサートだったよ。指揮者はぼくに他の作品も欲しいと手紙をくれた、興奮してたよ（理解できないね！）。ロッテルダムのラジオが《祭りの朝》を、たぶん今月に、放送するだろう。

もし何かの音楽雑誌でロッテルダムについての記事があったら、教えてくれたまえ。

[余白に]

ラモット作曲のオーケストラ曲を何かもっていないかい？フリスペがすぐに演奏するだろう。

「君の家族」によろしく。友マヌエル

註

[1] ユゲとは、アグスティ・グラウのこと。彼の本名はAgusti Grau i Huguet。書簡175参照。

[2] 《遊園地》は6曲から成る。カザルスは、1919年以來、バルセロナで自らの管弦楽団を持っていた。

[3] エドゥアルド・フリプセEduard Flipse（1896～1973）。オランダの指揮者、作曲家。1930年からロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者。

[4] アレクサンドル・タンスマンAlexandre Tansman（1897～1986）は、ポーランド出身でフランスで活躍した作曲家。ユダヤ系。1919年パリに移住し、ラヴェルなどの知遇を得て活躍。パリで活躍する外国出身作曲家達、すなわちチェコのマルティヌー、ハンガリーのハルチャーニ、ロシアのチェレプニン、ルーマニアのミハロヴィッチ、そしてカタルーニャのモンポウらと共に「パリ楽派」と呼ばれたりする。

186

Estimat amic ^[1]

Un simple full blau per recordarte que recordo..

Ahir vaig il·luminar totes les imatges de la Garriga, parlant amb una persona.

En pocs dies ens has fet passar dugues vegades la "maroma" amb el teu equilibrista. Una al concert de "rentrée" d'en Viñes aón el public -una sala magnífica- ho va demanar a grans crits a l'hora dels bisos

L'altre vegada al cercle d'estudis hispanics amb conferència per el programa ja veurás. que representes el puntal de la jove escola.

Jo pensaba una cosa trista: "a aquestes hores ja no es music! Té una fàbrica de savons i fa de corredor de segurs. Ha adormit el músic que portaba a dins.. pero encare hi deu ser

Si tant sols tingués la perseverancia de perseguirlo uns

moments durant el dia, potser acabaria per obtenir un "segur" de vida, naturalment, artística..

Es el meu desitj.

Frederic

親愛なる友よ、

[これは] 君にはよくが覚えているということをおぼせさせるための、一枚の青い便箋だ。

昨日、或る人物と話しているときに、ラ・ガリーガの全イメージが輝くのが見えたんだ。

ごく最近、我々は2回にわたって、君の《軽業師》の「ロープ」が張られるのを見たのだ。1回は、ビニェスの「シーズン明け」コンサートにおいて。そこで、聴衆は — すばらしいホールだ — アンコールのときに、それを大きな叫び声と共に要求した。

もう1回は、講演つきのスペイン学研究会において。そのプログラムを見れば、そこに若い楽派の源流が轟いているのが解るだろう。

ぼくは悲しいことを考えていた。つまり「今頃は、もう彼は音楽家ではない！」とね。石鹼工場をきりもりし、保険外交員をしているのだ。自らの内にある音楽家を眠らせてしまったのだ……。でも、まだまだ[音楽家は]そこにいるに違いないんだ。

もし1日のうち少しでもそれ[音楽]を追求する根気を持っているなら、多分最後には人生の「保証」[「生命保険」とのシャレ]を手に入れることができるだろう、もちろんその「保証」とは芸術的な保証ということだ……。

それこそぼくの願いなのさ。

フラダリック

註

[1] この書簡には日付がない。カタルーニャ図書館の編者は文脈上（ブランカフォルト《遊園地》の《軽業師の

ポルカ〉のピニェスによる演奏、ブランカフォルトの石鹸業など) この箇所に入れたのだろう。リエイダ出身でパリで活躍中のピアニスト、リカルト・ピニェス(書簡136ほか参照)は1924年にパリで〈軽業師のポルカ〉を大成功のうちに初演をすると、それ以後自分のレパートリーに入れていたようだ。

185

Paris 21 Febrer 1938.

Amic Manuel

Vareig rebre la teva carta amb un més de retrás per aixó vareig enviarte avans d'ahir un telegrama que deia: "Recibo carta encargo resuelto escribo"

Molt m'ha alegrat sapiguer notícies directes de tots vosaltres. Jo indirectament ja sabia que tots estaveu bé. Ja sabs que de tants anys que visc aquí Paris el meu pensament continua sempre fidel al lloc aont he nascut i els aconteixements actuals son per mi d'una gran tristesa.

Referent al teu encarrec el dia 18 vareig fer el pedido. Solament de l'any 32 fins ara s'ha augmentat

El color mandarina a 130* el K.
" " a 140* " "

El compte de Senart sols tens un crédit de 43 francs. I a la llibreria Gamber la vaireig trobar en liquidació judiciaria i sols te quedaban 23 francs inmobilitzats.

En Neuburger se va oferir per adelantarte aquests franc, que segons els teus calculs eren 3 a 400 francs. Va dir que tractanse d'aquesta quantitat i de ferte un favor que ell estava disposat a adelantartela. Pero com que ara en realitat pujara uns 600 francs, o bé els adelantara tots, o bé si arrufa el nás allavors jo afegiré lo que falti.

Veig que encara tens temps per fer alguna cosa de música. Jo he fet tambe unes impresions sobres l'Exposició de Paris en un album aont han contribuït els compositors

extrangers. Pero la major part eren coses que ja tenia pues produeixo molt poc. L'últim dia que vas venir a casa vareig tocar el començament d'un Preludi en el cual hi havia una resolució que no t'agradava; doncs encare es l'hora que no he pogut passar d'allí! Estic molt abatut.

El meu germa esta en convalescencia i se pot dir curat a Leysin (Suïssa)

El dia 1er de Mars anirém allí a passar uns quinze dies amb la meva mare i el meu pare.

Desitjo que tot vos vagi bé i t'agraire m'escriguis notícies vostres.

Els meus millors recorts per a tots.

Frederic

11 bis R. Théodore de Banville.

パリ、1938年2月21日

友マヌエルよ、

君の手紙をひと月遅れで受け取った。だから、一昨日電報を送ったんだ。こういうやつだ、「手紙 受け取った 用事は解決 手紙書く」。

君の御家族全員の近況を直接に受け取ることができて大変に嬉しい。ぼくは間接的には皆さんがご無事なことは既に知っていた。君も既に知っていると思うが、ぼくはここパリにもう何年も住んでいるけれども、ぼくの想いは自分が生まれた所に常に忠実であり続けている。そして、最近の諸事件はぼくにとって大きな悲しみなのだ^[1]。

君の用事に関しては^[2]、18日に注文をしておいた。ただ、32年から現在までに、値上げをしていた。

オレンジ色がーキロ130*

“ ” が “ ” 140*

スナールについては、君は43フランのクレジットしかない。

そしてガンベール書店は、会社更生法を申請していて、君には23フランの固定資産だけが残っている。

ヌービュルジェは、君に対して、君の計算では3、400フランになるという例の金額を前払いすることを申し出ている。彼らが言うには、これだけの金ならば君に有利になるように、前払いをする用意があったらしい。しかし、今や実際には金額が600フランほどに上っているので、[ヌービュルジェが] 全額を前払いするのか、眉を顰めるのなら、その場合はぼくが不足分を補っても良い。

君はまだ音楽を何か作る時間を持っているようだね。ぼくもパリの博覧会についての印象をいくつか書いた。これは[パリの] 外国人作曲家たちが協力して作ったアルバムのためのものだ^[3]。しかし大部分は既に持っていたもので、つまりほとんど作曲できていないんだ。君がうちにきた最後の日に、ぼくは君にプレリュードの冒頭部分を弾いて聴かせたが、そこには君には気に入らない解決があったね。つまり、ぼくは未だそこから離れられない時間にいるんだ！ とても憔悴しているんだ。

ぼくの兄は回復に向かっている。レザン（スイス）で快癒すると言えるだろう。

3月1日には、両親とそこへ行って、2週間ほど滞在する予定だ。

御家族皆がお元気であることを祈っている。皆さんの知らせを手紙でよこしてくれたらうれしいよ。

みなさんによろしく。

フラダリック

テオドール・ド・バンヴィル通り11番地bis

註

[1] 1936年7月18日にフランコ将軍がクーデターを起こし、バルセロナでは19日に軍が蜂起、それを共和国守備隊と民衆が迎え撃ち、市街戦となる。この戦いで共和国側が勝利し、カタルーニャではクーデターが阻止され、これが内戦状態へと続いて行くこととなる。しかし共和派・反ファシスト派の中にも、極左やアナキストや穏健派

などが入り混じり、混乱状態を呈する。この辺りの状況はジョージ・オーウェル『カタロニア讃歌』に活写されている。1938年初頭にはフランコ反乱軍がバルセロナに迫ってくる。この書簡はその頃の状況であり、直後の3月にはフランコ側がリエイダ占領、7月のエブラ川の戦闘で共和国軍が大敗し、翌1939年1月26日にはバルセロナが陥落する。20万人のカタルーニャ人が国境を越え、フランスに亡命した。その中にはカザルスもいた。ブランカフォルト一家は市内にいなかったからかカタルーニャに踏み留まる。

[2] これはジャンネスによれば、モンボウがフランス領事との関係を生かして物資不足の友人達のために誂えたもので、ブランカフォルトの（石鹸）工場のための着色料であった。（Janés, *op.cit.*, p.174.）

[3] 前述の「パリ楽派」の作曲家達が作品を寄せ合って作った曲集《パリ万国博覧会1937年の遊園地 *Parc d'attractions EXPO 1937*》。モンボウは《博覧会の思い出 *Souvenirs de l'Exposition*》と題して、〈入場 *Entrée*〉、〈統計表 *Tableaux de Statistiques*〉、〈太陽系儀 *Le Planétaire*〉、〈優美館 *Pavillon de l'Élégance*〉の4曲から成る曲集を提供した。他には、チェレブニン、マルティヌー、リエティ、オネゲル、アルフテル、タンスマン、ミハロヴィッチ、ハルシャーニが参加している。パリのマックス・エシック社から出版された。

186

Paris 4 juny 1923^[1]

Estimat amic

Jo no pensaba que la primera carta dirigida als Estats Units fós precisament per a tu. Ni tampoc que fós escrita sobre paper rosa i que fós per dirte que la casa Senart ha acceptat la teva musica. Quant siguis de retorn el teu reconet ja rebrás el contracte que sera igual al meu lo que vol dir en les mateixes condicions. No he donat tots els quaderns pues no totes les peces estaban en condicions d'impremta. Vaig escollirne vuit de les que més me plauen

Els titols seran deixats en blanc. Tu ja decidirás a les primeres correccions. El quadern sortirà a la "Musique de Chambre."

Vaig quedar molt trist! el dia que't vas despedir de mi!
I fins me vaig trobar una mica malament, una mica de
defalliment nerviós

Aquell Mag del Pavillon de Madrid me va reprendre! Bon
viatge.

T'estima Frederic.

パリ1923年6月4日

親愛なる友よ、

アメリカ合衆国に送る最初の手紙^[2]が、まさに君へのものとなるなんて考えてもみなかったよ。そしてそれがピンク色の紙に書かれたものになるなんて、そしてまたそれが君にスナール社が君の音楽を了承したということ伝えるものになるなんてね。君が君の一隅に帰ったときには、君はほくのと同一契約を受け取るだろう。つまり、同様の条件のものということだ。ほくは全ての曲集を渡したわけではない。だから全ての作品が印刷条件に入っているわけではない。ほくは一番気に入っている8曲を選んだのだ。

タイトルは空白になっている。君が初校で決めたらいい。曲集は『室内楽』[雑誌]で出版される。

お別れの日はとても悲しかったよ！ その上ほくは少々具合が悪かったんだ。少々神経の発作があった。

あのマドリッド館の魔術師がほくを治してくれたよ！ よい旅を。

敬具、フラダリック

註

[1] この書簡はカタルーニャ図書館の編者が誤ったのか、あるいは後から収集されたのか、いずれにせよ年次が合っていない。日付から言えば、ブランカフォルトからモンポウに宛てた2通の手紙、33番と34番の間に位置しなければならぬ筈だ。しかし実際には1923年6月20日の日付を持つ書簡34の内容は「これからニューヨークに出かける」というものなので、辻褄が合わない。

[2] アビニョアのブランカフォルト伝によれば、彼が

アメリカに行ったのは同年7月6日、その直前にパリに立ち寄っている(6月26日)(Aviñoa, *op.cit.*, p.26)。だから恐らくモンポウが7月を6月と書き間違えたのだろう。

187

Frederic

En el seu afany de separar el seu nom del meu, va demanar-me que li tornés totes les cartes i que ell em tornaria les meves.

N'hi vaig tornar algunes que tenia més a mà, però n'hi havien moltes més, que he recollit aquí.

1982

Com varies vegades m'havia declarat impiament

es tradicional ajuntar dos mons per definir una època (Wagner-Berlioz-Bach-Handel-Hayden Mozart, Debussy-Ravel, etc. etc.

フラダリック^[1]

ほくの名前と彼の名前を仕分けたいので、彼は彼の手紙を全て送り返して欲しいし、ほくの手紙をほくに送り返すとやってきた。

手元にあるものいくつかは彼に返したが、もっと持っていたけれど、ここに取り返したんだ。

1982年

ときどき彼はほくに無作法なことを言ってくるからね

一つの時代を定義するのに二つの世界を合わせることは良くあることだ(ワーグナーとベルリオーズ、バッハとヘンデル、ハイドンとモーツァルト、ドビュッシーとラヴェルなどなど)

註

[1] これからはブランカフォルト財団収集の書簡、

すなわちブランカフォルトからモンポウへの書簡のみであり、恐らく時代もまちまちなものが混ざっている。1982年の時点で彼らの書簡集を編むというアイデアがあったのだろうか。時にモンポウ89歳、ブランカフォルトは85歳である。「彼」とは誰のことなのか解らないが、カタルーニャ語では主語を明記しないことが多いので、これは三人称単数の、例えば、どこかの出版社などでもあり得る。

188

Estimat amic

M'havia xxx del propòsit d'enviar-te un racull de memòries que vaig publicar el maig passat. Però mai és tard per complir un acte d'amistat. Aquesta carta es doncs per acompanyar un exemplar del llibre. Tal vegada ja t'en n'ha arribat un exemplar per una banda o altra: Si fós aixís, no hi fa rès: jo vull que en tinguis un xxx directament de les meves mans.

Com que parlo molt dels temps en que tu eres tant de la Garriga i del Balneari, més d'una vegada treus el cap

Em planyo que les circumstàncies no hagin afavorit conservar aquella aproximació de la nostra joventut, que a la meua edat no sé si et passa a tu- els veig com els millors de la vida. Però el record que m'en queda es fresc com si es tractés d'ahir mateix. La teva música xxx de L'Ermite, encare que en el llibre no s'hi senti, jo tot escrivint, la sentia.

Vagin, doncs, aquestes lletres a [portar] -te una vegada més l'aplaudiment a la teva música i l'afecte del vell amic

親愛なる友よ、

ぼくが去る5月に出版した、回想録一部を君に送った方が良いとxxxがぼくに言っていたんだ^[1]。しかし友情の証を示すのに遅過ぎるということはない。この手紙は、だから、その本と一緒に送るものだ。もしかしたら、あちらこちらで、君には既に1冊送っているかも知れない。もしそうなら、気にしないでくれ。xxxをぼくの手から直接受け取って欲しいのだから。

君がラ・ガリーガと「湯治場」にそれほど関わっていた時期について多く語っているので、一度ならず君は顔を出しているよ。

ぼくたちの青春のあしたの接近を保存するのに諸状況が好意的でなかったことを嘆いているんだ。それらは、ぼくの歳になると — 君の場合はどうだか解らないが — 人生の最良のときのように思えるのさ。しかし、ぼくのうちに残る思い出は、まるで昨日のことに新鮮だ。〈僧院〉での君の音楽xxx、書物ではそれを聴くことはできないけれども、ぼくは、執筆しながら、それが聴こえていた。

さて、だから、これらの文字はいま一度、君の音楽への喝采を届けるため、そして古くからの友人の友情を届けるものだ。

註

[1] この書簡188は、かなり削除の跡が著しく、手紙の下書きのように見える。「xxx」となっているのは手稿でもそうなっている。ここで話題となっている「回想録」だが、マヌエル・ブランカフォルト自身はそのようなものを書いたことはない。しかし彼のすぐ上の兄、温泉ホテル家業を継いだ次男のペレ・ブランカフォルトPere Blancafort de Rossellóは『ラ・ガリーガ、その湯治場と私』という回想録を1976年に出版している（Pere Blancafort de Rosselló, *La Garriga, el balneari i jo*, Editorial Ariel, La Garriga, 1976）。そしてその「前書き」をマヌエルが書いているので、ここで「ぼくが出版した」と言うのもそのことと取れないことはない。筆者はバルセロナのモンポウ財団事務所で、モンポウへの献辞付きのこの書物を見せられ、コピーしたのだが、その文言が殆ど次の189の文面と一緒にある。次の註で紹介しよう。

189

Al gran amic i tant admirat compositor Frederic Mompou, que sab tantes coses de les que parla aquest llibre.

P---

偉大なる友人、あれほど賛嘆された作曲家フラダリック・モンポウに。彼は、この本が語る物事をかほど知っているのである。

p.....^[1]

註

[1] 188の註でも述べたように、これはブランカフォルトの兄、ペレ・ブランカフォルトがモンボウに贈った回想録の表紙の献辞と殆ど一緒である。それをここに訳出すると：「偉大なる作曲家で偉大なる友人、あれほど賛嘆されたフラダリック・モンボウに。彼は、この本が語る物事をかほど知っているのである。ペレ・ブランカフォルト、ラ・ガリーガにて1976年12月18日」。言葉の順番が少し違うのと、署名と場所・年月日を書いてあるのだけが違う。しかし、189の手稿の最後の「P」は、どうしても「ペレ」だろうし、これはマヌエルが書いたものではないだろう。彼らの筆跡もよく似ている。ちなみに前年の1975年11月20日にフランコ将軍が死去し、独裁制が終焉している。カタルーニャでは自由に自分達の文化を謳歌する雰囲気が増っていたに違いない。このこととペレの著書（カタルーニャ語で書かれている）出版は関係がないだろうか。

190

[FALTA TEXTO]

III

I Longás no surt del nivell del public. Es possible que t'hagi sentit tocar a tu mateix les "Escenes d'infants"?

Jo soc l'unic que t'hauria pogut transportar la teva música en rotllos perquè la comprenc i no necessito aclaracions. No tant sols la que tens escrita però la que escriuràs d'avui en davant. Jo comprenc la música i sé fer rotllos que toquin lo que jo vui i com jo vui. I jo no puc editarlos. no puc per ara.

Encare em falta dir una cosa. Debussy, per exemple, escriu de manera que amb poca intuïció n'hi ha prou per traslladar al rotllo l'escriu.

La simplicitat que tú (i jo també) vols ha d'esser en les idees, sobretot, i en l'esperit de la música. En canvi, aixís com les harmonies que passen com colors complicats damunt una simplicitat i ingenuïtat de línies, no son de

cap manera, acorts primaris o sencills sino moderníssims i complicats, aixís també l'escriu no pot escapar-se de certa complicació si ha de registrar amb alguna fidelitat l'expressió de la teva interpretació. Ara, si tú no pretens aixó i deixes al gust del lector la interpretació, has de estar pre-

[FALTA TEXTO]

[欠落]

III

そして、ロンガスは聴衆の程度を脱しないのだ。君自身に《子どもの情景》を聴かせるなどということがありえるだろうか^[1]？

ぼくは、君の音楽をピアノ・ロールに出来た唯一の人間だ。なぜなら、ぼくはそれを理解し、何の説明もいらぬからだ。それも君が書き上げたそれ〔音楽〕のみならず、今後書くであろうものもだ。ぼくは音楽を理解し、ロールを作ることができる。それをぼくが好む人間に、ぼくの好むように演奏させるのだ。そして〔しかし？〕ぼくはそれを出版できない。今のところ、できないのだ。

まだ言い残したことがある。たとえばドビュッシーなどは、彼の〔音楽の〕書き方は、ほとんど直感など必要なく、ただ書かれたものをロールにするだけで十分なのだ。

きみが（そしてぼくもまた）欲している単純さは、アイデアの中になければならない。とりわけ、音楽の精神の中に。その代わり、〔旋律〕線の単純性と純真さの上にある複雑な色彩として現れる和声と同じように、それらはいかなる意味でも原始的とか素朴なものではなく、むしろモダニズム的で複雑なものなのだ。同様にまた、書法はある種の複雑化を免れない、もし、君の演奏の表現をある程度の忠実さで写さなければならぬとしたら、ね。そのときは、まさしく、もし君がそう主張せずに、演奏を読者の好みに任せてしまうのであれば、君は……しなければ……

[欠落]

註

[1] この書簡にも日付がない。ロンガスとは、フラダリック・ロンガス Frederic Longàs i Torres (1895~1968)。バルセロナ出身のピアニスト・作曲家。マラツとグラナドスに学び、世界的に活躍した。彼のことは1925年の書簡64と1928年の書簡152に出てくるが、後者ではロンガスはアメリカに行っているの、恐らくこの書簡は1925年頃のものだろう。《子供の情景 *Scènes d'enfants*》は、1915~18年に書かれ、1921年にパリのスナールから出版された、モンポウのピアノ曲集。

補遺

16 nosbre [novembre] 1919

- Cants Màgics

- m'impulsa a compositar musica catalana

Amic.

M'estranya molt no haver rebut H. la revista quan aquesta es va enviar certificada. Aixís és qu'es podrà fer la corresponent reclamació en el cas de no rebre-la.

Tocades les teves [oracions ingenues]. M'agraden molt i ja parlarém analíticament el dia que baixis i [puguís]

L'altra nit van venir a casa per sentir les meves obres una [seria] de critics de lo millor de la floraixen-ta Catalunya. No't diré més que la meva personalitat va quedar definida. Tots ells van sentir una sorpresa forssa inesperada junt amb l'alegria d'haver trobat un music catalá. (ja veus!)

Els cants Magics gran exit

Estic molt animat i prego que se traspassi aquest entusiasme al teu esperit prometedor per formar part de la nova juventut musical de Catalunya.

En tot en món s'han fet moltes coses en el silenci

Ara lleigeixo com adelanta la musica moderna en els joves Italians dels quals ma faig enviar quelques obres

També els joves Austriacs com igualment els joves Anglesos.

Apa amunt els Ermitans joves, aquesta nacionalitat desconeguda en el

mapa [empenta] en el silenci de la lluita!

Frederic.

16 Novembre 19.

1919年11月16日^[1]

— 魔法の歌

— が私をしてカタルーニャ音楽を作曲させようとする^[2]

友よ、

Hが雑誌をまだ受け取らないのはとても不思議だ、それが書留になっているのに。これだから、郵便局に苦情を訴えてもいいね、[書留を] 受け取ってないからね^[3]。

君の[純真な祈り]を弾いてみた^[4]。とても気に入ったよ、君が[バルセロナに] やって来て [できる] 日に分析的に話をしよう。

先日の夜にうちにぼくの作品を聴きにカタルーニャの花盛りの最上の部分の批評家の[グループ] がやってきた。これ以上君には言わないが、ぼくの個性は決定的にとどまっている。彼ら全員がひとりのカタルーニャ音楽家を発見したことに、喜びと共にかなり期待していなかった驚きを感じたようだ。(ほら見たまえ!)

魔法の歌は大きな成功を得た。

ぼくはとても勇気づけられた、そしてこの勇気を君の精神に、カタルーニャの新しい若い音楽を形作る気持ちでいっぱい君の精神に吹き込みたいと思う。

みんなのところで、多くのものごとが沈黙のうちに行われたのだ。

今ほくは、イタリアの若者たちのうちで現代音楽がいかに進歩しているかを読んでいるが、そのいくらかの〔原文フランス語〕作品をほくのもとに送らせている。

オーストリアの若者たちもイギリスの若者たちも同じだ。

さあ！ 若い隠修士たち、この地図上に存在しない国民の上に、戦いの沈黙のうちに〔進もうではないか〕！

フラダリック

1919年11月16日

註

[1] 解題でも述べたが、これは最近発見された書簡である。日付から言って、書簡13（1919年11月14日）と14（11月20日）の間に入るものだ。

[2] 《魔法の歌Cants mágics》は、1917年～19年に作曲され、1930年マドリッドのスペイン音楽連盟Unión Musical Españolaから出版された、モンポウのピアノ曲集。初演は1921年4月15日、パリのエラル・ホールで、モンポウのピアノの師フェルディナン・モット＝ラクロワによる。これを聴いた音楽批評家エミール・ヴェイエルモーズ（書簡92参照）が絶賛した記事（『ル・タン*Le Temps*』1921年4月22日号）を書いて、モンポウはパリ楽壇に知られるようになる。

[3] 書簡12と13で、H（ブランカフォルトの妻 - 1920年に結婚するので当時は婚約者 - でヴァイオリニストのエレナ・パリスHelena Paris）がパリからのモード雑誌を待っている話が出て来る。

[4] このような作品は現在の作品表には載っていない。